令和5年度グランドデザインの解説

グランドデザインとは、今年本校が何を目指し、どういう手段と考え方で進もうとしているのかを構造的に理解していただくためのものです。より詳しい取り組みについては、学校経営計画でお示しし、学校評価をこの項目でいただきます。

1 全体像

大子の象徴であるリンゴの木をモチーフに、おおよそ3つの構造にわかれます。

上部は目標とスローガンを、中段には目指す姿と組織を、下部には主な方法や手段を表記しています。要点は3つです。

1つめは、本年度のスローガンである「深掘ろう」についてです。「解く」から「問う」を重視した学びの変革を目指します。

2つめは、体験の重視です。特に自然体験活動に焦点を当て、生きた学びから「ワクワクとモヤモヤの好循環」を生み出していきます。

3つめは、コミュニティスクール制度の導入です。地域人財の力を借り、地域作りと学校作りの一体的推進をしていきます。

2 目標とスローガン

目標は県および大子町の目標をうけ、「持続可能で選ばれる地域共生型学校」を目指すこととしました。そのためのスローガンは「深掘ろう」です。

時代は大きく変容しています。テクノロジーの進歩、気候変動、人口減少、そして平和な社会観の崩壊など、子どもたちが担う未来は、予測困難な状況です。この時

代において、大人子どもを問わず皆に必要とされる学びのかたち、それが「深掘り」だ考えています。人が課題解決を求められるとき、これまでは目の前の問題を合理的に解けば合格でした。しかし、今や予測不可能な時代だからこそ、常にそもそも論、つまり本質にたち一步先を見据え、新たな知見や方策を「問う」構えが必要です。

「なぜ どうしよう うまくいかない」状況下で、自ら問いをたて解決策を見いだそうとする営みを「モヤモヤ」とし、それをクリアし、自信をもち、もっと知りたい、進みたいとする営みが「ワクワク」です。時代に沿う学びは、これらを好循環で繰り返す主体的な営みです。それを教育では「探求」と呼んでいますが、私は簡潔に「深掘り」と表現しました。子どもたちはもちろん、教職員や本校のサポーター皆にも同様に、この「深掘り」を楽しめる生活を過ごしてほしいと願っています。

3 目指す姿と組織

次に、グランドデザインの中段の部分は、目指す姿と組織です。

まず、育てたい子ども像は、「深掘り」の学びをとおして育てたい、これからの時代に沿う子ども像として、「得意」「柔軟」そして「粘り強さ」の3要素で構成しました。これは学習指導要領の3観点に合致させています。子どもの両側から教職員と校内外のサポーターが支え、学校や地域全体で子どもの共育にかかわります。

学校組織は、経営の4重点である「学びがいい」「働きがいい」「頼りがいい」「生きがいい」の推進を担う部を確立し、教職員一人一人が、日々の授業はもとより、自分の担当業務をとおして、経営の4重点のどこに尽力できているのかを明確化しました。

4 主な方法や手段

最後に、グランドデザインの下の部分、主な方法や手段です。

目指す目標は教職員だけでは実現できるものではなく、校外の様々な人財の力が必要です。そこで本校は、コミュニティスクール制度を導入しました。地域人財の力をかりて、授業を充実させ、本校ならではの特色ある教育を創出・推進します。本年度は特に、自然体験活動に重点を置き、大子の強みである自然資源をフルに生かし、ICT を駆使した教育実践をします。自然体験を単発行事ではなく、体験活動をすべての教科に関連付け、教科等横断的で深い学びを、地域人財の協力のもと進めます。いわゆるカリキュラムマネジメントをとおして、本校ならではの特色ある教育課程をつくる「もりのこプロジェクト」も連動して推進します。

最後に、校外からかかわっていただいた皆さんには、身近な方や地域の方々に対して本校の教育を話題にしていただき、生きた広告塔として還元していただきたいと思えます。それが、未来の子どもたちの社会参加や自立につながる芽を育てることとなり、地域共生の土壌をつくることになると期待しています。

持続可能で選ばれる地域共生型学校を目指して、子どもたちとともに日々「深掘り」を大切にしながら、充実した特色ある教育を提供できるよう、教職員一同が誠意とスピードを大切に尽力していきます。ぜひご協力とご支援をお願い致します。

大子特別支援学校長 大澤宏規